

第2次伊那市総合計画後期基本計画 及び後期土地利用計画の策定について

1 策定の背景

本市においては、令和元年度から令和10年度を計画期間とする「第2次伊那市総合計画」を策定し、豊かな自然や景観、祖先から引き継いだ歴史、文化を大切にしながら、基本構想に掲げる将来像「未来を織りなす 創造と循環のまち 伊那市」の実現に向け、様々な施策を推進しています。

この度、令和5年度末をもって第2次伊那市総合計画前期基本計画及び前期土地利用計画の計画期間が満了となりますが、本市が進むべき方向を定め、市民の皆様と将来像（ビジョン）を共有しながら計画的に事業を推進する必要があるため、令和6年度を初年度とする第2次伊那市総合計画後期基本計画を策定することとしました。

また、国土利用計画法に基づく「土地利用計画（国土利用計画）」についても、令和5年度末をもって前期土地利用計画の計画期間が満了となるため、総合計画後期基本計画の策定に合わせ、総合計画の一部として、後期土地利用計画を策定します。

2 策定方針

「第2次伊那市総合計画前期計画」の策定以降、国や地方を取り巻く社会情勢は、少子高齢化の進行や人口減少問題の顕在化、環境問題の深刻化、財政状況の悪化、産業・雇用構造の変化、高度情報化の進展など、刻一刻と変化してきました。さらに、新型コロナウイルスの世界的な流行や急激な物価上昇など、私たちの暮らしを取り巻く環境も大きく変化してきています。

また、地方分権の進展により、自治体の自由度と責任が拡大されていく中で、地方創生の視点から本市のまちづくりを総合的かつ計画的に進めていくためには、市民や地域、各種団体など多様な主体の参加と協働による取組の重要性が今まで以上に高まっています。

こうした状況を踏まえ、「第2次伊那市総合計画後期計画（後期基本計画・後期土地利用計画）」の策定に当たっては、経済の動向や社会的ニーズの的確な把握に努め、各種施策の現状について検証・分析を行うとともに、市民や地域、各種団体等の意見を伺いながら、現状に即した実効性の高い計画となるよう努めます。

3 計画の構成及び期間

「伊那市総合計画」とは、将来の伊那市のあるべき姿や、行政運営の方向性を明らかにしたものです。また、「基本構想」、「基本計画」、「土地利用計画」及び「実施計画」をもって構成し、それぞれの性格と目標年次、計画期間を次のように定めます。

(1) 基本構想

基本構想は、長期展望に立って、本市を取り巻く地域社会の将来像を定め、それを実現するための基本的な施策の大綱を示すものです。令和元年度を初年度とし、令和10年度を目標年度とします。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想で定めた施策の大綱を実現するため、適切な指標や数値目標を設定した上で、基本的施策の内容を定めるものです。基本構想の前半の5年間となる「令和元年度から令和5年度まで」を前期基本計画期間とし、その後の「令和6年度から令和10年度まで」を後期基本計画期間とします。

(3) 土地利用計画

土地利用計画は、基本構想に掲げた将来像を実現するため、社会・経済情勢や本市の土地利用の状況、国・県が策定する「国土利用計画」や県が策定する「長野県土地利用計画」を踏まえ、適正な土地利用を図るための基本的な方針です。原則として5か年の計画とし、社会・経済情勢に応じて内容の見直しを行います。

(4) 実施計画

実施計画は、基本計画に定めた基本的施策を効果的に実施するための主要事業等を集約したもので、毎年度の予算編成の指針としての位置づけを有しています。社会情勢や経済環境などの変化に柔軟に対応するため、原則として3か年の計画とし、毎年度の見直し(ローリング)により、実効性の確保を図ることとします。

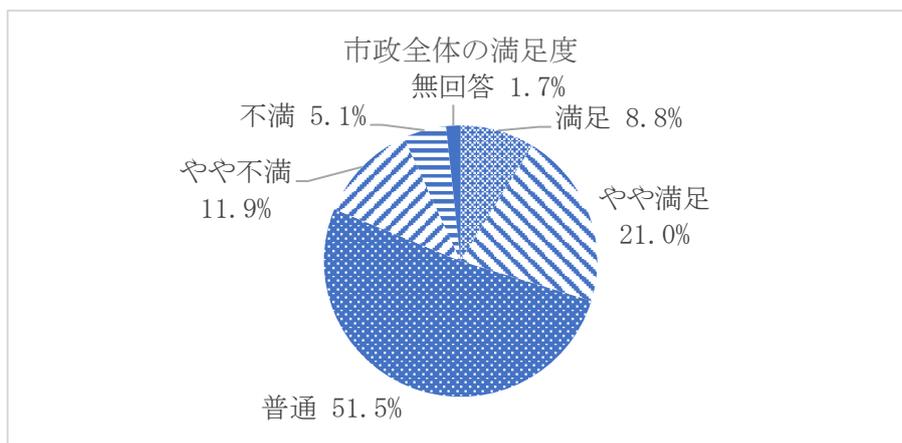
◎期間

年度	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10
基本構想	10年									
基本計画	5年(前期基本計画)					5年(後期基本計画)				
土地利用計画	5年(前期土地利用計画)					5年(後期土地利用計画)				
実施計画	←→			←→			(3年分を策定し、毎年度見直し)			

まちづくり市民アンケートの結果について（概要）

1 伊那市の市政について

現在の伊那市の市政全般の満足度をたずねたところ、「満足」(8.8%)と「やや満足」(21.0%)を合わせた人は29.8%となっています。一方、「不満」(5.1%)と「やや不満」(11.9%)の合計は17.0%で、“満足している”人の割合を下回っています。



2 各施策の評価について

(1) 現状の満足度

総合計画の施策体系に基づき、各施策の状況を「満足度」として全48項目についてたずねたところ、“満足度”の獲得点数は、「自然」が1,114点で最も高く、以下「環境衛生（ごみ、リサイクル）」(706点)、「子ども・子育て」(508点)、「医療」(367点)、「上下水道」(317点)が上位となっています。

年代ごとの特徴としては、10代は「学校教育」、20代は「防犯・平和」、30代は「保育」、40代は「移住・定住・交流」、50代は「医療」、60代は「地域環境」、70代は「健康」、80代は「高齢者福祉」の満足度が他の世代と比べ高いことがあげられ、自身に身近な施策に対する満足度が高い傾向にあります。

【現状の満足度】

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	医療	学校教育
年代別	10代	自然	学校教育	景観形成	子ども・子育て	住宅・住環境
	20代	自然	防犯・平和	景観形成	観光	地域自治・コミュニティ
	30代	自然	子ども・子育て	保育	医療	環境衛生 (ごみ、リサイクル)
	40代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	学校教育	移住・定住・交流
	50代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	医療	移住・定住・交流
	60代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	子ども・子育て	地域環境	健康
	70代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	健康	地域自治・コミュニティ	高齢者福祉
	80代	自然	環境衛生 (ごみ、リサイクル)	地域環境	高齢者福祉	上下水道

(2) 今後の重要性

総合計画の施策体系に基づき、満足度と同様に各施策の今後の「重要性」についてたずねたところ、“重要性”の獲得点数は、「子ども・子育て」が1,115点で最も高く、以下「高齢者福祉」(811点)、「医療」(549点)、「就労・雇用」(512点)、「農業」(392点)が上位となっています。

年代ごとの特徴としては、10代は、「学校教育」、20～40代は、「子ども・子育て」、50～80代は、「高齢者福祉」の重要性が最も高く、各世代とも身近な課題を優先する傾向にあり、世代によって優先度の分布に特徴がみられますが、「子ども・子育て」は、全世代において重要性が2位以上となっており、優先度の高い項目となっています。

20～50代の勤労世代では、「就労・雇用」が上位にランクインしており優先度が高い傾向にあります。また、多くの年代において、「医療」の重要性が高くなっています。

【今後の重要性】

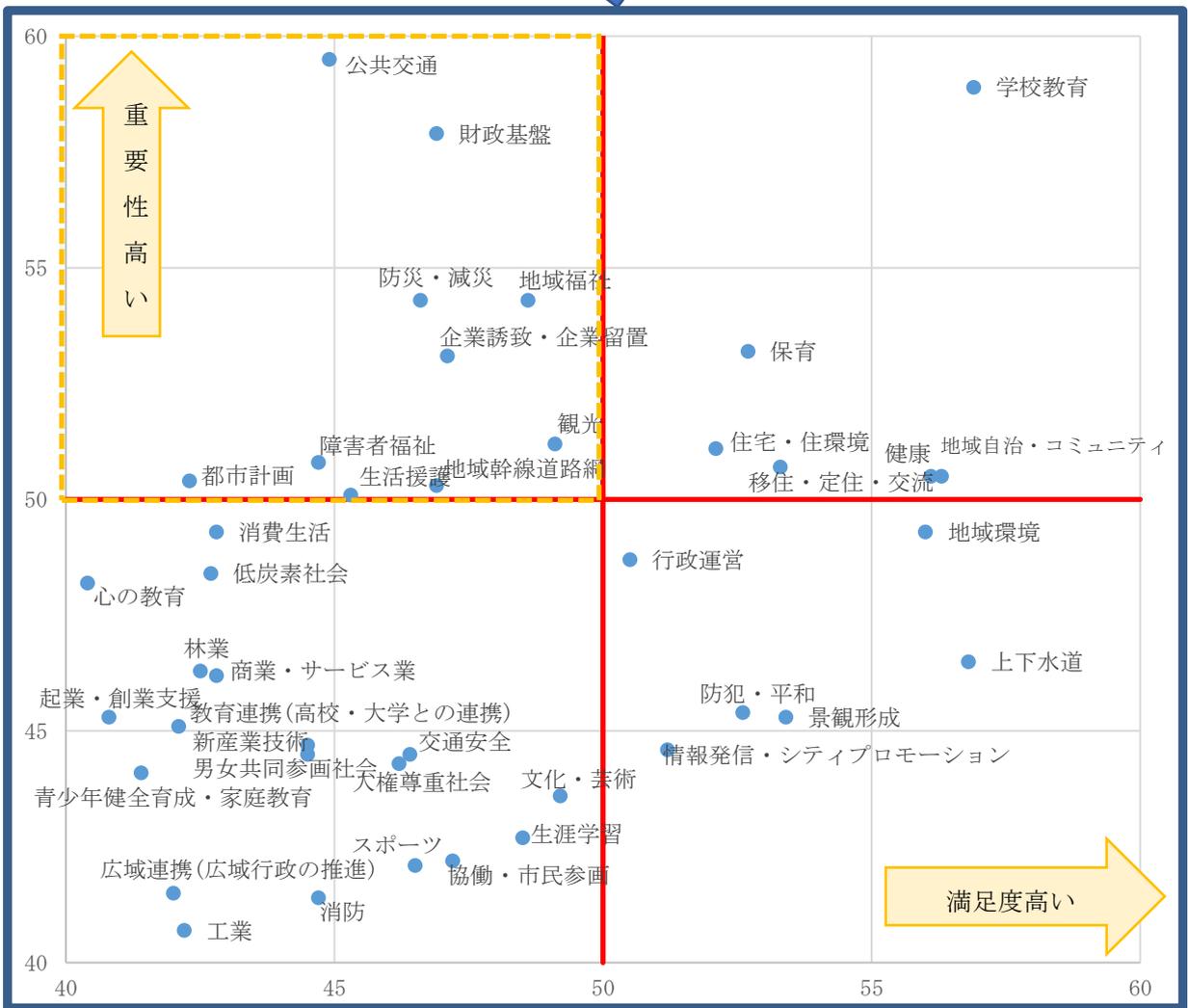
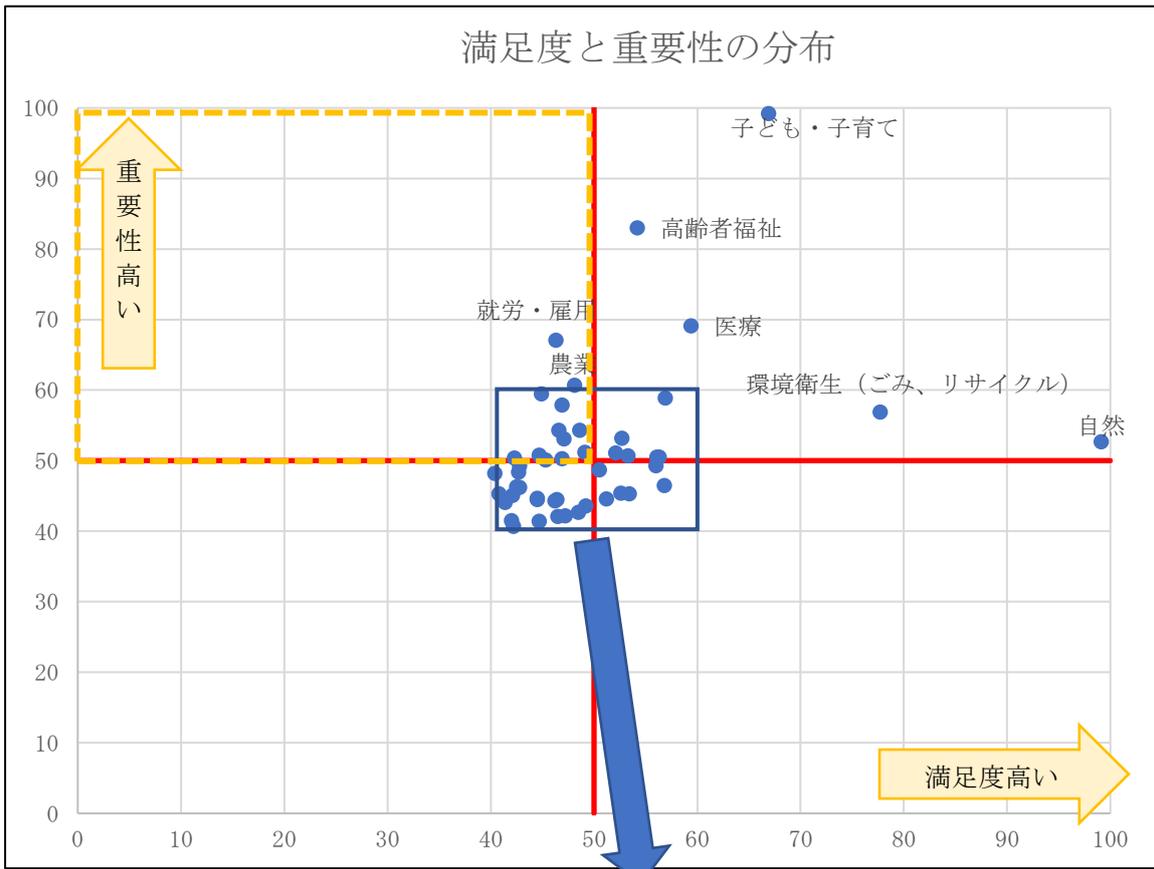
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全体		子ども・子育て	高齢者福祉	医療	就労・雇用	農業
年代別	10代	学校教育	子ども・子育て	高齢者福祉	公共交通	自然
	20代	子ども・子育て	就労・雇用	保育	医療	財政基盤
	30代	子ども・子育て	保育	学校教育	就労・雇用	高齢者福祉
	40代	子ども・子育て	高齢者福祉	医療	就労・雇用	学校教育
	50代	高齢者福祉	子ども・子育て	就労・雇用	医療	環境衛生 (ごみ、リサイクル)
	60代	高齢者福祉	子ども・子育て	医療	農業	就労・雇用
	70代	高齢者福祉	子ども・子育て	農業	医療	公共交通
	80代	高齢者福祉	医療	財政基盤	就労・雇用	企業誘致・企業留置

3 分布図による分析

各施策の満足度、重要性の各点数を偏差値に換算し、満足度と重要性をそれぞれ横軸、縦軸に設定し、分布図を作成しました。また、グラフ上の偏差値50の位置にラインを引くと、4つのエリアに分類されます。ここでは「満足度が低く、重要性が高い」施策（満足度の偏差値50未満かつ重要性の偏差値50以上）を「優先度が高い項目」と定義します。

【重要性が高く、満足度が低い施策（満足度の偏差値50未満かつ重要性の偏差値50以上）】

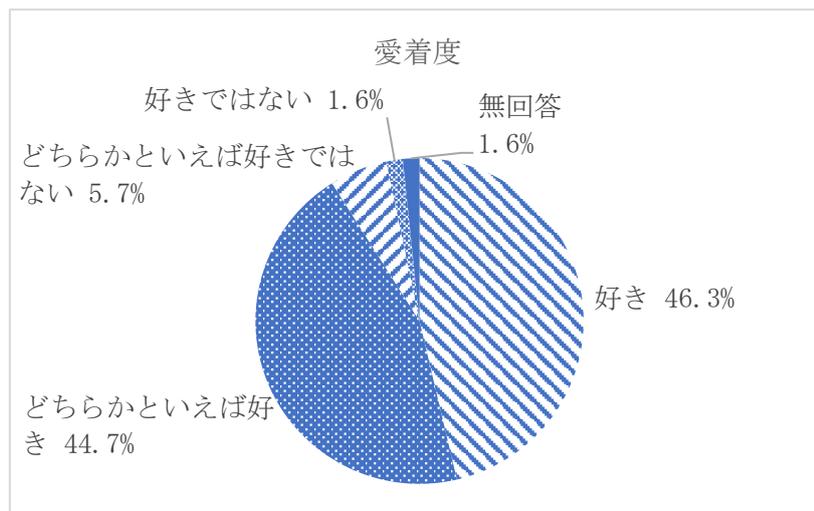
- ◆就労・雇用 ◆農業 ◆公共交通 ◆財政基盤 ◆防災・減災
- ◆地域福祉 ◆企業誘致・企業留置 ◆観光 ◆障害者福祉
- ◆地域幹線道路網 ◆都市計画 ◆生活援護



4 中学生アンケート

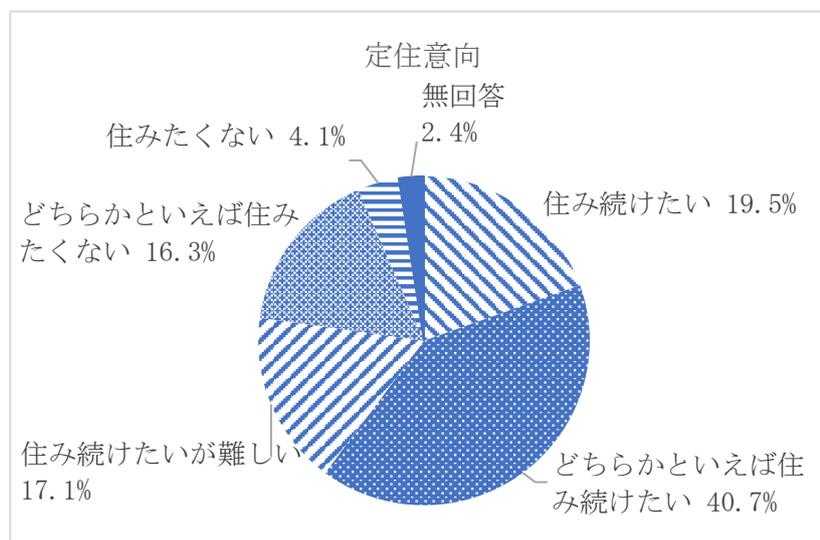
(1) 愛着度について

伊那市の愛着度をたずねたところ、「好き」(46.3%)と「どちらかといえば好き」(44.7%)を合わせた“愛着度の高さ”は91.0%となっています。一方、「どちらかといえば好きではない」(5.7%)と「好きではない」(1.6%)の合計は7.3%で、“愛着がある”割合を大きく下回っています。



(2) 定住意向について

今後の定住意向をたずねたところ、「住み続けたい」(19.5%)と「どちらかといえば住み続けたい」(40.7%)を合わせた“定住希望がある”人は60.2%となっています。一方、「住みたくない」(4.1%)と「どちらかといえば住みたくない」(16.3%)の合計は20.4%で、“定住希望がある”割合を下回っています。

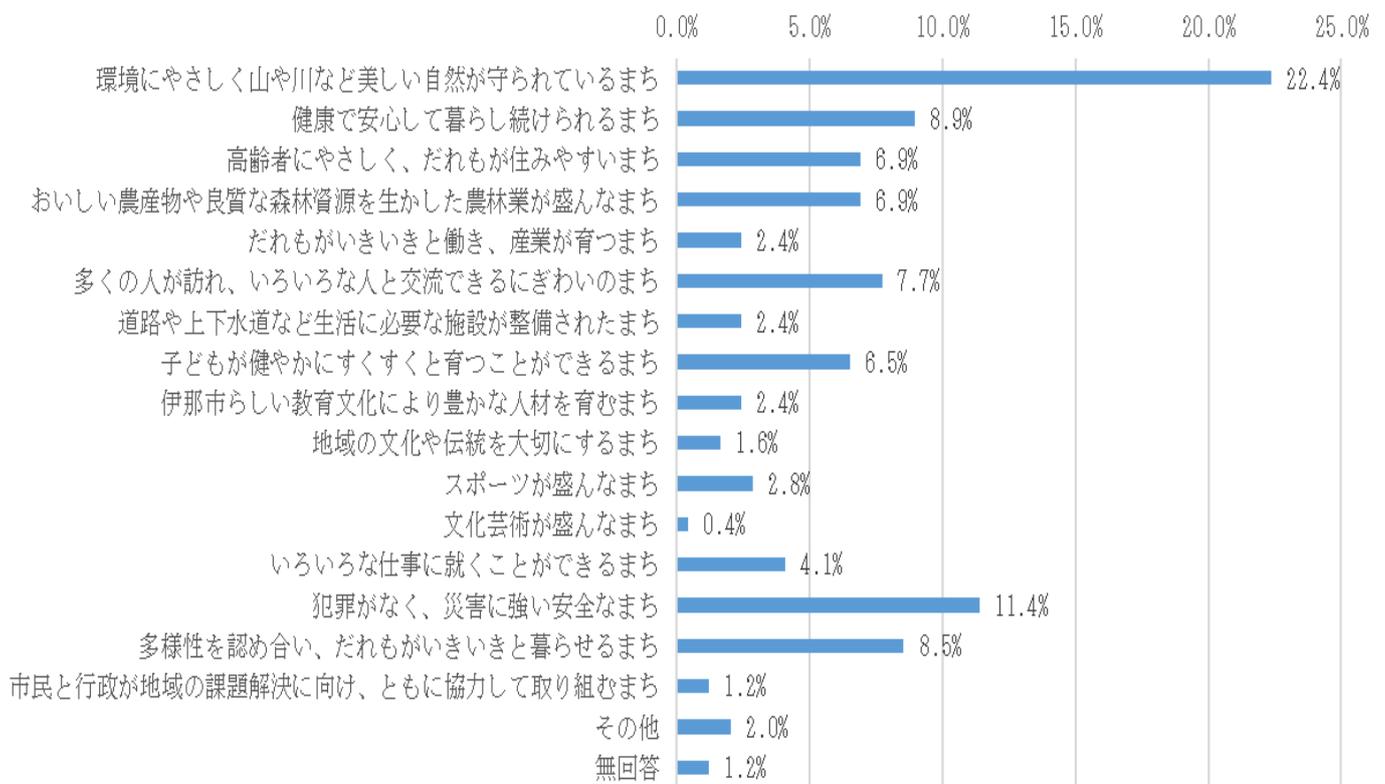


(3) 今後のまちづくりの方向性について

将来のまちづくりの目指すべき方向性についてたずねたところ、「環境にやさしく山や川など美しい自然が守られているまち」(22.4%)、「犯罪がなく、災害に強い安全なまち」(11.4%)、の2項目へ関心が集中しています。

中学生にとって身近な課題であることが影響し、「自然環境の保全」と「防災・安全」に回答が集中したと推察されます。また、「多様性を認め合い、だれもがいきいきと暮らせるまち」が上位となり、時代を反映した結果となっています。

まちづくりの方向性



総合計画審議会 審議等スケジュール

《令和5年6月5日現在》

	日時・場所	審議内容
第1回	6月5日(月) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆委員委嘱、正副会長選出、諮問 ◆策定方針、スケジュール説明 ◆序論説明
第2回	7月4日(火) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆序論協議 ◆基本計画第1章、第2章説明
第3回	7月27日(木) 13:30~15:30 伊那市役所 501・502 会議室	◆序論確認 ◆基本計画第1章、第2章協議 ◆基本計画第3章説明
第4回	8月21日(月) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆基本計画第1章、第2章確認 ◆基本計画第3章協議 ◆基本計画第4章説明
第5回	9月19日(火) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆基本計画第3章確認 ◆基本計画第4章協議 ◆基本計画第5章、第6章説明
第6回	10月10日(火) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆基本計画第4章確認 ◆基本計画第5章、第6章協議 ◆土地利用計画説明
第7回	10月27日(金) 13:30~15:30 伊那市役所 501・502 会議室	◆基本計画第5章、第6章確認 ◆土地利用計画協議
第8回	11月9日(木) 13:30~15:30 伊那市役所 多目的ホール	◆土地利用計画確認 ◆全体まとめ